

## じぎょうしゃとう ひありんぐちようさけっか 事業者等へのヒアリング調査結果

### (1) 調査の概要

本調査は、海津市における多文化共生社会の形成を目的とし、外国人材および外国にルーツをもつ市民の受入実態を把握するため、市内に事業所等を有する企業、保育・教育関係、市民活動団体7団体に対し、採用経路、教育・生活支援、地域との関係、課題および多文化共生に関する意識等についてヒアリングを実施した。

### (2) 傾向と課題

#### ① 人材確保と外国人雇用の定着化

- ・日本人の労働力不足により、外国人材は恒常的な戦力になっている。勤務態度は良好。
- ・定着には給与水準・生活支援が影響。病院同行など丁寧な対応を行う企業もある。

#### ② 監理団体への依存と支援のばらつき

- ・技能実習・特定技能制度を利用する企業は監理団体経由が多いが、支援内容には差がある。
- ・通訳・生活支援を企業が補完するケースがある。

#### ③ 言語・文化面の課題

- ・言語の壁は課題。日常会話は可能だが、読み書きは困難な場合が多くみられる。
- ・コミュニケーションツールとして、翻訳アプリ等を活用している。
- ・ゴミ出しなど小さなトラブルは見られるが、宗教習慣などは大きな問題とはなっていない（食事は原則自分たちで用意。ラマダン中の体調面の配慮は必要）。

#### ④ 生活環境・交通の不便さ

- ・公共交通や商業施設の不足が不便との声がある。コミュニティバス路線の改善要望が強い。
- ・企業が社宅・自転車を支給。買い物や病院同行など独自支援を実施している企業もある。

#### ⑤ 地域交流

- ・地域活動への参加はあまりみられないが、情報が届いていない可能性がある。
- ・地域活動が盛んなエリアがあり、今後、地域との連携が見込まれる。